

# 鉄工所から不動産業へ転身

今年に入り不動産業へ本格参入したアライプロバンス（東京都墨田区、新井嘉喜雄社長）は、創業以来石油の掘削機器などの製造を手掛けてきた異色の経歴を持つ。どのようにして業種の大転換を遂げたのか。新井太郎代表取締役専務と田草川直樹取締役経理や事業の展望を聞いた。

## アライプロバンス

同社は1903年に新井鉄工所として創業。35年株式会社に移行し、機械加工を手掛けるようになった。高い圧力で材料を結合させるアブセット溶接用の機器を納入するなど、NKK（現JFEスチール）と強いつながりがあった。

53年にドリルパイプなど石油掘削機器の製造を始めた。73年には第1次オイルショックが発生。石油価格が高騰し、掘削需要が高まった。昭和50年代に入り、年商は約200億円に到達。川崎市、千葉県浦安市、北九州市に相次いで工場を新設し、順調に事業を拡大した。海洋研究開発機構（JAMSTEC、松永是理事長）の地球深部探査船「ちきゅう」に製造したドリルパイプが採用されるなど、実績を重ねていった。

赤字が続き、資産を減らしていった」と唇をかむ。製造業からの撤退を決断したのは16年だった。東京都江戸川区など「優れた立地にまとまった工場用地を奇跡的に持っている」（新井専務）ことなどから、不動産事業への転換にかじを切った。

社員の反対は根強かった。新井専務は「一般論で言えば、10人中9人が反対するかもしれない」との考えを示す。それでも「代々受け継いできたアライの火を絶やしてほらない」との思いの下、大胆な業種転換を敢行した。

だが国際競争の波に次第に飲み込まれ、苦境に立たされる。海外の製造技術が上がり、人件費の安い海外製品に価格で太刀打ちできなくなっていた。新井専務は「2000年ころから

## 受け継いできた火を絶やさない



思いを語る新井専務と田草川取締役



水辺を意識した青いラインでスタイリッシュなデザインを採用した浦安市港物流センターの完成イメージ

## スコープ 企業経営

不動産事業を始めようにも、「これまでものづくり一本で、いわばど素人だった」（新井専務）。勉強を重ね、宅地建物取引士や賃貸不動産経営管理士の資格を取得した。ゼネコンやデベロッパーでの勤務経験を持つ田草川取締役を迎えるなど、着々と事業体制を整えていった。

今年4月に現在の社名に変更し、不動産事業に本格的に乗り出した。第2の創業を迎えた。

## 地域企業の強み、人脈生かす



浦安市港物流センターの地鎮祭に出席した新井社長

歴代社長も喜んでくれていると思う」と新井専務は思いをこみしめる。

初陣事業は、浦安市の工場跡地で計画するマルチテナント型物流施設（仮称）浦安市港物流センター。今年7月に地鎮祭を開き、21年10月末の竣工を目指し建設工事が始まった。地鎮祭に出席した新井社長は「全身、全精力を込めて成功させた」と意気込みを語った。

「創業からおよそ120年やってきたこと」が強みと語る新井専務。本社がある墨田区や江東区、江戸川区といった東京の城東地区の歴史を知り尽くしている。これまで築いてきた人脈も、不動産事業にも生かせると考えている。目指すは「城東地区ナンバーワン」の総合不動産。「日本の不動産業界で確固たる存在感を示す未来へ突き進む」

